



三春中学校だより

第 21 号

発行日 平成30年 8 月 6 日

発行所 三春町立三春中学校

電話 0247-62-2181 F A X 0247-62-6978

E-mail miharu-j@fcs.ed.jp

【教育目標】『三春に暮らす生徒一人ひとりに、将来に対して喜びと生きがいのある人生を主体的に創造する力を育み、地域に信頼され、ひいては、国際社会に貢献できる人材を育てる』

【地域行事前半の部を味わいました！～きゅうり祭、三春の里夏まつりを楽しみました。～】

三春中学校のPTAによる校外補導活動の前半の部が行われ、お忙しい中、たくさんのPTAのみなさんにお集まりいただきました。

7月26日(木)は、八雲神社の祭礼に伴う補導活動が行われました。子どもたちが引く山車が通り、お神輿が行き来し、黒い顔の獅子頭が行ったり来たりと、お祭りの雰囲気いっぱい。階段の前で神社に昇りかねていたお獅子はみんなの励ましと後押しでようやく社への急な階段をお上りになりました。愛姫通の両側にはびっしりと露店が並び、PTAのみなさんと通りを行き来していると、普段の制服姿ではなく、美しく着飾った子どもたちや卒業生と出会いました。

7月29日(日)は、三春の里の夏まつりの日。JA桜支店前をお借りしての集合。JA職員と間違われ道を聞かれたり駐車場をご案内したりしながら、補導のみなさんにお集まりになるのを待っていました。たくさんのみなさんにお集まりいただいたので、2班に分かれて補導を開始。自然観察ステーション前の屋台、メインステージ前の広場、花火待ちの場所取りの広場などで本校生を発見。八幡様で見かけた子どもたちもいました。

日中は酷暑の中、部活動や学習にいろいろな汗を流し、夜は各地の地域行事に、地域の一員として参加し、それを満喫し、充実した夏休みを過ごしているなど感じ、それぞれの会場をあとにしました。

補導にお集まりいただいたPTAのみなさん、ありがとうございました。8月13日(月)の要田、14日(火)の沢石、15日(水)・16日(木)の三春の盆踊りもどうぞよろしくお願ひします。



【東北大会出場！激励いただきました！～オール田村の一員として町長さんから激励を。～】

7月27日(金)、三春町役場において、三春中学校5名、岩江中学校1名の野球部員が、町長さんより直接激励をいただきました。

6名の野球部員は、田村地区の中学校から選抜された野球チーム、『オール田村』のメンバーです。県大会で見事優勝を果たし、福島県代表として、青森県で行われる東北大会に出場することとなりました。

選抜チームでレベルの高い練習等に臨み、それを持ち帰りチーム



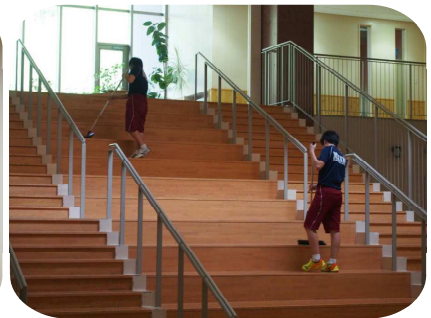
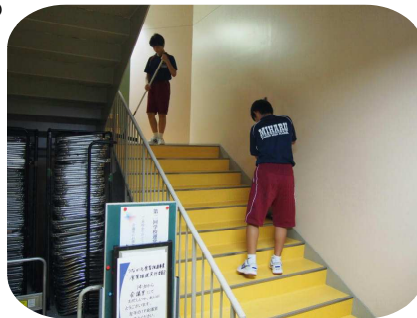
に伝えることで、学校の野球部の活動もさらに質が高まっていきます。野球部から選抜された選手一人ひとりには、顧問のしっかりした指導のもと、選抜されたことに決して天狗になったり学校での練習に手を抜いたりすることなく、学校の練習も大切にし全力で取り組みながら、選抜チームの一員としても、自らの使命と責任を自覚し、ひたむきに、そして、こころ豊かにがんばっています。それでこそ、選抜チームに選ばれる資格があるのだと思います。

『命の輝き』共に、ひたむきに、そして、こころ豊かに」まさに、学校の経営方針そのままの子どもたちです。そんな野球部を心から応援したいと思いますし、三春中学校の他のすべての部活動もそうあってほしいと強く願います。

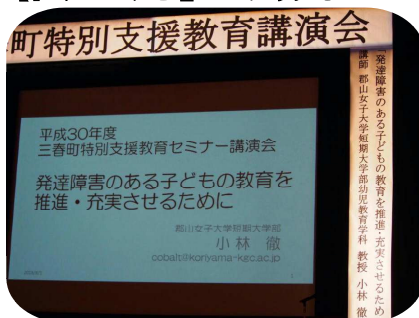
【コツコツ、カンカンという音が！ ～夏休みも校舎を清掃しています。～】

校長室の出入口はいつも誰でも入ってきていように扉は開け放してあります。校長室で仕事をしていると、『階段だかCGだかの方から、コツコツ、カンカンという音が聞こえてきました。何だろうと思って音のする方へ出てみると、男子生徒がほうきで階段やCGを掃除してくれていました。「ご苦労さま。」と声をかけると、男の子は、「えっ、はい。」と答えました。

夏休み中も自分たちの校舎は自分たちで整えます。自分が使ったところでなくとも、部活動ごとに分け合って担当を決め、整った学びの環境づくりに取り組んでいます。とても大切なことです。「おつかれさまでした。」



【『命の輝き』＝自分もまんざら捨てたものではない！～町特別支援教育セミナー講演会～】



8月1日（水）の午後、講師に、郡山女子大学短期大学部教授 小林 徹 先生をお迎えし、『発達障がいのある子どもの教育を推進・充実させるために』と題して、平成30年度の三春町特別支援教育セミナー講演会が三春交流館まほらにて開催されました。本校よりも出席可能なすべての教職員が参加し、特別支援教育がめざし、心がけることなどについてご講演をいただきました。

“特別支援教育は特別な教育ではない”と言われて久しいにもかかわらず、障がいについての理解や生きづらい特性をもった人に対する理解は、まだまだ十分ではありません。共に学び、共に生きるというインクルーシブ社会への方向性と逆行し、自分本位で排除の気持ちに固執するようなお話、人権そのものを無視するような出来事が後を絶ちません。教員生活が養護学校（今は特別支援学校）で始まった者にとって、そういうお話や出来事に会ったときに、“どうしてなんだろう。みんな同じなのに”という思いを抱きます。

今回のご講演は、講師の小林先生の特別支援学級担任としての経験をもとにした、一つ一つ深くなるお話しでした。そして、そのお話しは、障がい児だけにとどまることなく、生徒をどのように見て、どのように理解し、どのように接していったらいいのか、そして、生きることとは何かという根源的な内容についても思いを巡らすことのできるすばらしい内容でしたのでここにご報告します。

『発達障がいのある子どもの教育を推進・充実させるために』

講師 郡山女子大学短期大学部教授 小林 徹 先生

1 私の今日の目標

これまで自らが地域で行ってきた取り組み（地域との連携・特別支援学級における授業づくりなど）を伝え、「障がい児と共に育ち合う生活」について共に考えることです。

（その1 紙面の都合で、内容等は次号以降複数回に分けてご紹介いたします。）